

VOL. 10

アントレプレナーシップを 教育によって修得する

立命館大学 産学協同アントレプレナー教育プログラム

ベンチャー企業の育成が国をあげて進められるなか、起業家教育（アントレプレナーシップ教育）に取り組む大学も増えている。だが、立命館大学経営学部教授・黒木正樹氏は、「本来のアントレプレナーシップ教育とは、ベンチャー企業の創成に焦点をおくものではありません。『新しい価値を創造し、社会または市場に創出するために必要な能力』を養うことが目的です」という教育理念を掲げる。同大学では、この目的を達成するために、びわこ・くさつキャンパスの共通プログラムとして「産学協同アントレプレナー教育プログラム」を実施し、起業を志す学生だけでなく、多くの学生にアントレプレナーシップを修得する機会を提供している。

受講に際しては、成績とモチベーションを評価し、選考を通った学生にのみ履修を認めている。毎年140名近くの応募があり、履修認定者は100名ほどだという。

カリキュラムは、右ページに示したように4つのステップで構成されている。『『起業』を中心的題材としておくことで、『大手企業に就職する』以外のキャリア選択を認識させ、そのうえで各自の専攻や目的に沿って学べるようにしています』と黒木氏は語る。特徴的なことの1つは、実体験に基づく講演の多さだ。「展開科目」では、起業家や大手企業の新規事業責任者などが外部講師として登壇する。講義内容は講師に任せているが、ゲストス

産学協同アントレプレナー教育プログラム

「自立的で創造的な人材」「起業家精神（アントレプレナーシップ）に満ちた人材」の輩出を目的に、2005年から開始。滋賀県のびわこ・くさつキャンパスにある文理6学部（経済学部・経営学部・理工学部・情報理工学部・生命科学部・薬学部）の2回生以上を対象にした共通のプログラムであり、原則として16単位のパッケージ履修が要件となっている。学部によって、単位認定の方法が異なり、全単位が認定されるのは経営学部のみ。2013年度は、2回生64名（2年後のキャンパス移転に関わる経過措置のため経営学部のみ）、3回生44名（経営29、経済4、理工7、情報理工4）の学生が履修している。

ピーカーとして、第一線で活躍する実務家を各講義最低3名は招聘するように依頼している。また、「実践科目」では、ベンチャー企業の社長に同行したり、大手企業で課題解決型の演習に取り組むなど、多様な形態のインターンシップを用意する。同キャンパス内に設置された「BKCインキュベータ」*で、入居するベンチャー企業の活動を手伝えることも可能だ。

このカリキュラムとは別に、起業を目指す受講生には、オフィススペース（プリインキュベーションルーム）を貸し出し、支援する。既に、プリインキュベーションルームの活動から、防災グッズの販売会社や障がい者支援サービスの会社などを起業した卒業生もいる。だが、数は多くない。「迷っている学生には、就職を勧めます。アントレプレナーシップを身につけた学生は、組織のなかでも活躍できるからです」（黒木氏）

アントレプレナーシップは特定の人だけが有する資質だという意見もある。だが、本プログラムでは、多くの学生がアントレプレナーシップを身につけることができている。それは、アントレプレナーシップを、どんな職業においても必要になる能力として明確化し学生のモチベーションを高めたこと、そして講演をはじめ、インターンシップや学内のインキュベータ施設などで起業家に接する機会を多く設けて指導したことの成果といえる。



黒木正樹氏
経営学部 教授

*「インキュベータ」とは起業に関する支援を行う事業者やその仕組みのこと。

産学協同アントレプレナー教育プログラム



「アントレプレナーシップ論」では、シリコンバレーのケースを題材に、ベンチャー企業の具体的な事例を学ぶ。基本的には演習形式で、チームで課題に取り組む。

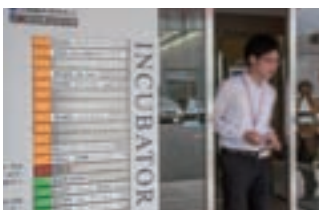


学んだことを実践したい

宮本琳太郎さん (経営学部2回生)

受講の理由は、「世界中で自分にしかできない研究をしている」と語る理系の先輩に刺激をうけ、自分も大学で学んだ内容を社会で実践したいと思ったからです。チームで課題に取り組み、その結果に対して先生が意見するという形式の授業は、教科書を読むだけの授業とは違って、やりがいがあります。また、目的もモチベーションも異なるメンバーで1つの結果を出すという作業は、社会に出てからも役に立つと思っています。とはいえ、黒木先生が求めるレベルに、自分の意識が追いついていないのが現状です。先輩方や実務家の実体験を多く聞き、自分の成長のスピードを速めていきたいです。

BKCインキュベータでは卒業後の起業をサポート



現在約20社が入居し活動するBKCインキュベータ。入居企業は、立命館大学や運営を担う中小企業基盤整備機構から、経営相談や技術開発などの支援を受けることができる。「卒業生がBKCインキュベータに入居し、在学学生をインターンシップで受け入れるという流れをつくりたい」と黒木氏は語る。

導入科目 (必修)

(2回生前期)

「アントレプレナーシップ論」
アントレプレナーシップの本質を学ぶ

アントレプレナー基礎科目

(2回生前期・後期)

起業に必要な「事業計画論」や
「資金計画論」などの知識を学ぶ

※展開科目に進むには、基礎科目から4科目以上を履修し、かつ成績評価「B」以上であることを要す

アントレプレナー展開科目

(3回生前期)

外部講師による実体験に基づいた
講義と、その内容についての討議

アントレプレナー実践科目

(3回生以上)

5日間から3週間のインターンシップ、
または、BKCインキュベータで半年間の管理業務の補助

起業を志す学生団体のための プラインキュベーションルーム



「Team.Ritsu」を立ち上げ活動する韓国からの留学生、林永周さん(右)と李政勲さん(左)。日本の中小企業を対象に、韓国企業とのマッチングやIT導入コンサルティング、Webマーケティングなどを行う。



プラインキュベーションルームを利用した団体から生まれた商品。手前から、栗東市名産のいちじくを使用したジャム、草津特産青花を使った「青花草茶」、京都観光者のための「古都トイレマップ」、防災グッズが背中に入る「防災くまちゃん」。



キャリア観が変わりました

華井玲奈さん (経営学部4回生)

「自分にアピールできるものがないと大学のなかでは埋もれる」という危機感があって、視座の高い学生が集まる本プログラムを受講しました。2回生の夏からインターンシップに参加し、自分に不足しているものを認識する一方で、外部講師やゲストスピーカーの話から、良い面を取り入れてきました。その結果、自分の将来についても、「大手企業に就職すればなんとかなる」という考えから、「会社の規模にかかわらず、自分でキャリアをデザインできる」という考えに変わりました。卒業後は、ベンチャー企業に就職します。自ら考えて行動し、付加価値の高い仕事をしたいと思っています。